

簡易版児童用アタッチメント尺度 (ECR-RC9) の作成 (1)

— 因子構造および内的整合性の確認 —

○中尾達馬 (琉球大学)
村上達也 (高知工科大学)

数井みゆき (茨城大学)

キーワード：アタッチメント，児童期，ECR-RC9

問題と目的

児童期のアタッチメント研究は、(1) 乳幼児期の「たて」のアタッチメント研究の流れを汲む正統的アタッチメント研究と (2) 成人期の「よこ」のアタッチメント研究の流れを汲む社会人格系の成人アタッチメント研究の影響を受けている。本一連発表 (中尾・数井・村上, 2016; 村上・中尾・数井, 2016) では、(2) の流れを汲み、近年、スウェーデンにおいて、児童期におけるアタッチメントの個人差を簡易に測定することができる尺度として注目を集めている ECR-RC9 (適用年齢10-17歳; 項目の英語表記は ECR-RS [Fraley et al., 2011] と同じ) の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。本発表では、ECR-RC9が Alfredsson et al. (2013) では1因子 (アタッチメントの安定性) として、Grip et al. (2013) では2因子 (回避, 不安) として扱われていたことを受け、まず、その因子構造を検討した。次に、 α 係数を算出し、その内的一貫性を確認した。

方 法

調査対象 小学生4～6年生222名

ECR-RC9の日本語版作成過程 ECR-RS の日本語訳 (古村・村上・戸田, 2014) および ECR-RC (Brenning et al., 2011) を参考に、著者らで ECR-RC9 の日本語訳を作成した。評定尺度は4件法 (1=あてはまらない～4=あてはまる) とした。

調査時期 2015年6月

結果と考察

確認的因子分析 ECR-RC9に対して、1因子モデルと2因子モデルの確認的因子分析を行った。その結果、2因子モデルの方が、1因子モデルに比べてデータにより適合していた (Table 1, 確認的因子分析結果は Table 2)。

内的一貫性 ECR-RC9の各因子に対して、 α 係数を算出した。その結果、概ね十分な信頼性が得られた (回避=.84, 不安=.72)。

以上の結果から、ECR-RC9は2因子構造を有しており、十分な信頼性を持つ尺度であることが示唆された。

Table 1 確認的因子分析における1因子モデルと2因子モデルの適合度指標

	χ^2	df	GFI	AGFI	CFI	RMSEA	BIC
1因子モデル	262.579	27	.772	.620	.700	.198	359.827
2因子モデル	125.814	26	.886	.803	.873	.131	228.465

Table 2 ECR-RC9の項目と2因子モデルにおける潜在因子からの標準化係数

番号	項目	F1: 回避	F2: 不安
1	困ったことや心配ごとについて、たいてい、おうちの人と話します。	.834	.000
2	いろいろなことを、おうちの人と話し合います。	.785	.000
3	つらいときは、おうちの人に話すと楽になります。	.832	.000
4	気軽におうちの人を頼れます。	.677	.000
5	心の奥深いところにあることを、おうちの人に話す気がしません。	-.458	.000
6	自分のことについて「多く」をおうちの人に話すことは、気が進みません。	-.539	.000
7	おうちの方は、自分をあまり好きではないかもしれない、と心配です。	.000	.781
8	自分がおうちの方のことを大切に思うのと同じくらいに、おうちの方が自分を大切に思っているのか気になります。	.000	.503
9	自分がおうちの人に本当に愛されているのか心配です。	.000	.798

注) オリジナルの ECR-RC9 のアタッチメント対象は「母親」である。本一連発表では、倫理的配慮から「おうちの人バージョン」の ECR-RC9 を用いた。